

年間第十三主日

2017.7.2

マタイ 10・34-42

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

先週に続いて今日の福音においても、十二人の弟子を選び、宣教の旅に送り出されるにあたってのイエスさまのおことばを聞きました。今日の朗読箇所直前には、イエスさまのこのようなおことばが響いています。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだと思ってはならない。平和ではなく剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘を母に、嫁をしゅうとめに」。このおことばはわたしたちをたじろがせます。このようなおことばは、わたしたちのイメージの中にあるイエスさまにはそぐわないように思えます。わたしたちが思い描くイエスさまは、暖かな優しさに満ちた、どこまでも憐れみ深いお方です。けれども、まさに、このようなわたしたちには受け入れがたいと思われるおことばによって、イエスさまは生きたお方として、わたしたちと出会われるのです。わたしたちが知っていると思っているイエスさまが、イエスさまのすべてではないのです。イエスさまの御後に付き従った弟子たちは、イエスさまのおことばによって、その都度、イエスさまと自分たちの関係を知ることになったのです。イエスさまは、あくまで自分たちの師であり、自分たちはそのイエスさまに付き従うべき弟子であることを悟らされたのです。そのようにして、イエスさまは、御自分が神のもとからこの地上に遣わされて来た神の子であるとの神秘を、弟子たちに悟らせてくださったのです。今日の福音の、わたしたちには直ちに受け入れがたいおことばをそのまま受け入れることによって、弟子たちのように、生きたイエスさまと出会わせていただく恵みを願いたいと思います。福音書を通して、わたしたちのイメージとは異なったイエスさまのおことばを見出すことによって、わたしたちも弟子たちが出会った生きたイエスさまの前に身を置くことができます。

それにしても、イエスさまは弟子たちに、そしてわたしたちにどのようなことを悟らせようとして、これらのおことばを語られたのでしょうか。「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない」とイエスさまは言われます。わたしたちにとって、最も身近な親子の絆よりも、大切なものがあるとイエスさまは言われるのです。イエスさまの弟子としてふさわしくあるためには、わたしたち

にとって断ちがたい親子の絆よりも大切なことがあるとイエスさまは言っておられるのです。

ガリラヤ湖の漁師であった最初の弟子たちは、「あなたがたを人間を獲る漁師にしよう」と声をかけられたとき、そこまで深く考えることもせずに、それまでのすべてのしがらみを捨てて、イエスさまの後について行ったのです。イエスさまについて行く道の中で、イエスさまに呼ばれたことがどのような意味を持つことであったかを経験してゆくことになったのです。

わたしたちもそれぞれの信仰の歩みの中で、わたしたちのキリスト者としての信仰がわたしたちにとってどのような意味を持つものであるのか、そのことをより深く悟る恵みを願いたいと思います。わたしたちにとって、自分が生きる意味は、イエスさまの弟子となることによって、イエスさまから与えられるものであることを悟る恵みを願いたいと思います。